



高速道路を走った市バス

昭和49(1974)年、大阪港(港区港晴)と大阪南港(住之江区南港北)を結ぶ「港大橋」が開通しました。その威容から大阪港のランドマークとなっており、現在は阪神高速道路大阪湾岸線の一部ですが、湾岸線開通前の橋単独であった頃から高速道路として利用されています。

かつて、この港大橋を経由して、大阪港と大阪南港を最短ルートで結ぶ市バス路線が存在し、大阪市営バスで唯一「高速道路を走るバス」として運行されていました。バスは、高速道路走行用に座席数を増やした車両が用意され、車内では港大橋を紹介する案内放送が流されました。港大橋は、橋の下を4万トン級の大型コンテナ船が航行できるよう海面から桁下まで50メートル以上あるため、港内の高い所を通るバスの車窓からの眺めは素晴らしいものでした。



開業当時(昭和49年頃)の走行風景(交通局提供)



バスの車内から(平成12年撮影 浮田 徹さん提供) また、高速道路を通るバスでありながら、特別な料金は不要で、市バスの運賃だけで乗れることから人気を博し、平成9(1997)年に大阪港咲洲トンネルが開通し大阪港トランスポートシステム(OTS)テクノポート線(現・大阪市営地下鉄中央線)が開業した後も、運行は継続されました。

平成17(2005)年、テクノポート線がOTSから大阪市交通局に移管され、運賃が値下げになると、バス利用者の減少が見込まれたことから、バスの本数削減とともに咲洲トンネル経由に改められ、一般路線バスでは珍しい、高速道路を通る市バス路線は30年余りの歴史に幕を閉じました。

なお、高速道路ではありませんが、有料道路を通る大阪市営バスの路線は現在2系統あります。咲洲トンネルを通る系統と、港区と大正区を結ぶ「なみはや大橋」を通る系統で、どちらも、港区発着の路線です。

